

自然と人間探究Ⅰ

47 回生 1 年 1 組（自然と人間探究類型）

<5 月>

【「探究Ⅰ」授業についてのガイダンス（**YouTube** にて）】



<6 月 15 日(月)7 限・29 日(月)7 限>

【**Zoom**で特別講義を実施（図書室）】

自然と人間探究類型「探究Ⅰ」
第1回

2020年6月15日(月)7限

特別講義① (オンライン講義)

テーマ: **探究とは何か？探究の重要性**

講師: **吉田大作先生**

(株)クロステック・マネジメント 取締役
京都芸術大学 スタートアップ支援室室長



<7 月 6 日(月)7 限>

【**稲美町役場**の職員による講義（稲美町の現状について）（図書室）】



今年の探究分野は“稲美町”

<7 月中旬>

8 つの班が決まり、班ごとの

探究テーマが決定！（別紙参照）



<8月31日(月) 6・7限>

特別講義

プレゼンテーション I

(講師：吉田大作先生) ((株)クロステックマネジメント 取締役)
(京都芸術大学 スタートアップ支援室)



<10月6日(火)5限>

特別講義

探究活動と大学の学び

(講師：永田拓治先生) (阪南大学 国際コミュニケーション学部)
(本校卒業生)



<10月26日(月)6・7限>

中間発表会

(講師：吉田大作先生)

1班 空き家の再利用



2班 ため池の必要性



3班 稲美町の給食



4班 稲美町の子育て



5班 給食カフェを作ろう！



6班 稲美の食と活性化



7班 稲美町の良いところマップ



8班 おいしいものを高校生が広めるには



講師として、京都芸術大学から吉田大作先生にお越しいただき、8つの班が、約5分で中間発表を行ったあとに講評してもらい、今後に向けてのアドバイスをいただいた。この他に、東播磨県民局の職員の方2名にも、見学していただいた。稲美町役場には、発表の様子をYouTubeに挙げて、見ていただき、その後各班へのアドバイスをもらうことができた。

生徒からの評価が高かった、「5班 給食カフェを作ろう！」の班には、11月のオープンハイスクールで中学生向けに発表してもらった。

<11月16日(月)7限>

東播磨県民局との交流会

1班 伊藤局長

(東播磨県民局長)



2班 野村班長

(地域振興室 水辺地域づくり担当)



3班 矢崎主任

(農林水産振興事務所 農政振興課)



4班 山地主査

(地域振興室 県民課)



5班 谷主任

(農林水産振興事務所 農政振興課)



6班 吉原普及主査

(農業改良普及センター 地域課)



7班 細見職員

(総務企画室 企画防災担当)



8班 林職員

(総務企画室 ビジョン担当)



兵庫県東播磨県民局から各班に一人ずつ、伊藤局長をはじめ、計9名の職員の方々に来ていただき、情報提供をしてもらいました。

<12月22日(火) 1・2・3限>

リーダー研修会

(講師：清水勲夫先生)

～生きる力としてのリーダーシップ～



野外活動協会（OAA）から生涯学習コーディネーターの清水勲夫先生に来ていただき、

「**リーダーシップ**とは何か」について、講義や実習などの研修をしてもらいました。

<2月8日(月)6・7限>

最終発表会

京都芸術大学

<来賓>

吉田大作先生

東播磨県民局

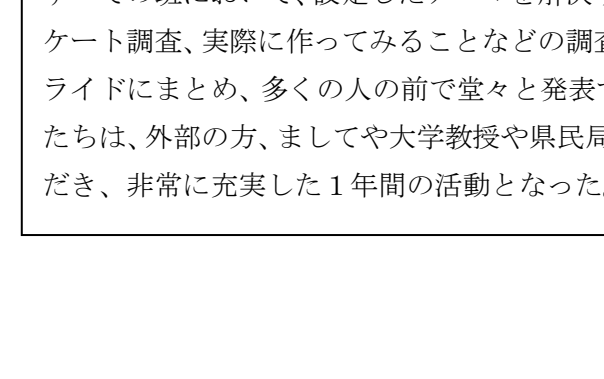
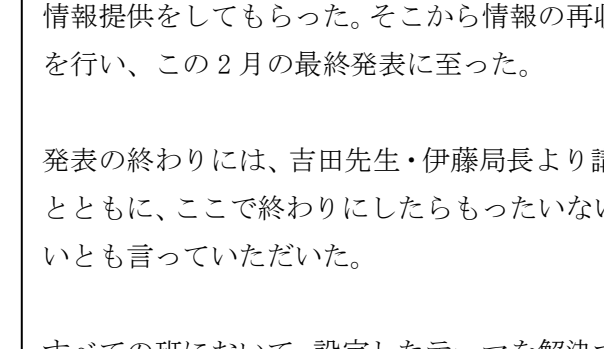
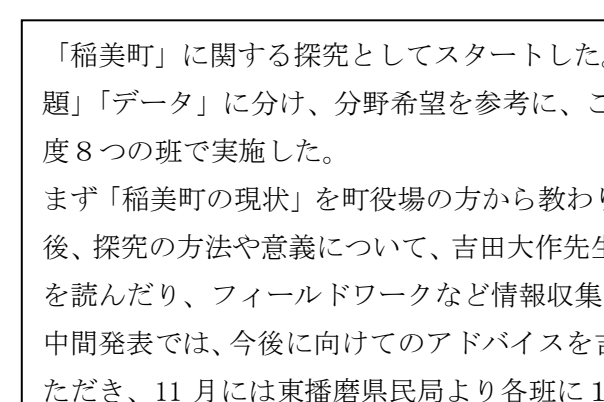
伊藤裕文局長・明石班長・谷主任・山地主査・林職員

稲美町役場

本岡部長・丸山主査



8つの班が約6分で発表を行い、その後質疑応答、講師の吉田大作先生より講評をいただくという流れで、発表会を行った。



「稲美町」に関する探究としてスタートした。分野を「地域活性化」「環境問題」「データ」に分け、分野希望を参考に、こちらでグループを作り、5名程度8つの班で実施した。

まず「稲美町の現状」を町役場の方から教わり、テーマ設定につなげた。その後、探究の方法や意義について、吉田大作先生や永田拓治先生から教わり、本を読んだり、フィールドワークなど情報収集を行った。

中間発表では、今後に向けてのアドバイスを吉田先生、稲美町役場よりしていただき、11月には東播磨県民局より各班に1名の職員を派遣していただき、情報提供をしてもらった。そこから情報の再収集や再調査、フィールドワークを行い、この2月の最終発表に至った。

発表の終わりには、吉田先生・伊藤局長より講評として、過分なお褒めの言葉とともに、ここで終わりにしたらもったいない。2年時にもさらに続けてほしいとも言っていた。

すべての班において、設定したテーマを解決すべく、フィールドワークやアンケート調査、実際に作ってみることなどの調査を熱心に行い、それをうまくスライドにまとめ、多くの人の前で堂々と発表することができた。さらに、生徒たちは、外部の方、ましてや大学教授や県民局長よりこのような高評価をいただき、非常に充実した1年間の活動となった。